

「交通事故」の気付き・講師の評価

No.	受講生の気付き	講師のコメント
①		・「鈴木です。」の「です。」の表現は不要。 ・「鈴木」「私」もしくは「私」「鈴木」と表す。
②	・事故現場の後、後ろを指した人がいたがなぜだろうかと思った。	・会話の場合は、後ろを指してあそこが事故現場と表すことはあるが、報告の場合は自分が立っている場所を事故現場として表す。 ・「ここ」「西」「出口」「前」「場所」で表す。
③	・人の少ない様子をわかりやすく表現できた人がいた。 ・人がいっぱいなのか少ないのかわからない表現の人がいた。 ・人のアルク表現方法が良い人がいた。	・「少ない」の表現は不要。 ・「ところ」は「場所」と表現する。
④	・「救急車が来る」の表現が人が来るになっている人がいた。 ・救急車が来た時の表情が良い人がいた。 ・救急車が止まる様子がわかりやすい人がいた。	・「ところ」は「ばかり」と表現する。
⑤		・「ところ」は「中・途中」と表現する。
⑥		・「ところ」は「くらい、範囲」と表現する。 この表現は終わりという意味になる。
		・「です。」という表現は不要

通訳チャレンジの気付き・講師の評価

受講生の気付き	講師のコメント
・難しかった。 ・聞き取りのとき、単語を忘れてしまった。 ・テンポがわからない。	・単語が分からない時は、CL や指文字を使うなど、工夫が必要。 ・聞いてすぐ表現することも、聞きだめしすぎてもダメ。 ・読み取り通訳も同様。

聞き取り通訳について

No.	講師のコメント
4	・困っている表情が大切。
9	・「通訳技術」「何」と表現する。
11	・「行った時のこと」は「行った」「話」と表現する。
13	・「大変ショック」は表情が大事。
16	・「3 年間」の表現を間違わないように。
17	・「ゴールではない」は意味をつかんで表現すること。
24	・「清聴」表現には2通りの表現がある。 ろう者は「見ていただいて」と表現する。聴者の場合は「聞いていただいて」と表現する。

読み取り通訳について

受講生の気付き	講師のコメント
・読み取った手話を日本語にするのが難しかった。 ・読み取った内容が間違っていたと後で気付いたときはどうしたらよいか。	・ろう者の手話に見慣れることが大切。 ・ろう者同士の会話を見ることも大切。機会があればろう者同士の会話を見て欲しい。 ・すべて読み終わった後での修正は難しいが、面談などの個人通訳の場合は、途中で間違ったと気付いたときの対応方法は今後の講座で学ぶ機会があると思う。講演などの場合は、一人で読み取る事はないので、間違った場合は待機の通訳者のフォローがある。これも今後の講座で万部機会があると思う。